



一人一人の成長に繋げるために

～「全国学力・学習状況調査」の分析より～



保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。さて4月に中学3年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の分析結果がまとまりましたのでお知らせします。調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に力を注いでいくことが、調査本来のねらいであると考えています。学校全体として、よりきめ細やかな指導をめざし、指導法の工夫改善を図ってまいります。各ご家庭におかれましても、今後の参考にさせていただき、尚一層のご支援をいただきますよう、宜しくお願いいたします。

調査内容

- ①生活や学習環境に関する質問紙調査
- ②教科に関する調査…国語A (主として知識)・国語B (主として活用)
数学A (主として知識)・数学B (主として活用)

★質問紙調査について

◆学校生活、学習に関すること

「学校の規則を守っている」、「友達との約束を守っている」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」等の規範意識はほぼ全国値と同じで、9割強が肯定的回答でした。

子どもたちの思いを大切にしながら、道徳教育の充実を図り、さらに意識向上を目指す取り組みを推進したいと考えます。特にいじめについては「絶対許さない」という姿勢を持てるように機会をとらえて指導していきます。

「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒が8割、「学校で好きな授業がある」と答えた生徒は9割弱で、ほぼ全国と同じ傾向でした。今後も生徒に「わかった」「できた」を実感してもらえる授業を提供できるよう、授業改善に全校で取り組んでいきます。

「1・2年生のときに受けた授業では生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思う」は約10ポイント、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う」は、20ポイント近く全国平均を上回っています。「総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」も20ポイント以上全国平均を上回っています。

本校では各教科で「言語活動の充実」を意識して授業づくりをしています。また3E(総合的な学習の時間)でも各教科と関連させ、言語能力を育む学習を効果的に行っている表れだと思えます。今後も「考える力を養うための言語活動」であることをきちんと押さえたうえで指導をしていきたいと思えます。

◆自分自身のことについて

「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」生徒は9割強、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」生徒は7割強で、ほぼ全国値と同じでしたが、「自分には良いところがあると思う」に対して肯定的回答は全体の2/3の生徒で全国値に比べ若干低い結果でした。

これからも成功体験や達成感を味わえる場を意識して設けるとともに、仲間同士で認め合う場を大事にし、自尊感情を高めていきます。

「将来の夢や希望を持っている」生徒は、3/4を越えており、全国値を上回っています。

「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」、「友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる」と答えている生徒は全国値とほぼ同じでしたが、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」という生徒は全国値を若干下回っていました。

上欄の結果にもあるように、意見交流の機会は他校に比べて多く、生徒は発表場面では工夫して発表しようと努力していることが分かるので、今後は生徒に自信を持たせることができるよう、評価の工夫が必要であると考えます。

◆家庭生活について

9割の生徒が「毎日同じくらいの時刻に起きる」が、「毎日朝食を食べている」生徒は全国平均より若干低めで9割を少し下回っています。朝食は「身体」と「脳」と「精神」を養う重要な食事です。起床時間がぎりぎり、朝食抜きにならないよう、気を付けてほしいです。

「普段(月～金曜日)テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)に費やす時間は「全くしない」が2割強と全国値より高い半面、4時間以上という生徒が2割弱おり、一部の生徒の使用時間が多くなっているのが気がかりです。1日の時間は限られていますからズルズルとやり続けてしまわないよう、注意してほしいです。睡眠時間の減少、運動不足、生活リズムの乱れ等の原因になります。

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)1日当たり2時間以上勉強をしている(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)生徒は4割、「家で学校の宿題をしている」生徒は8割強、「予習をしている」生徒が4割で、いずれも全国値を上回っていますが、「復習をしている生徒は5割弱で、全国値を若干下回っています。学力の定着のためには習ったその日のうちに、復習するのが効果的です、習慣づけたいものです。

◆地域との関わり

全国同様7割近くの生徒が「地域社会などでボランティア活動に参加した事がある」が、「地域の行事に参加している」は10ポイント近く下回っていました。しかし「地域や社会を良くするために何をすべきかを考えることがある」と肯定的に答えた生徒は全国値より10ポイント近く高かったので、部活動や習い事などで忙しいと思いますが、「自己有用感」を育む有効な機会ですので、積極的な参加を呼びかけていただければと思います。

★教科に関する調査結果について

1. 国語

平均正答率は「知識」に関する問題A、「知識の活用」に関する問題Bともに全国平均・県平均とほぼ同程度(±5%以内)でした。



各領域の状況・課題

話すこと・聞くこと

A・B問題ともに全国平均とほぼ同じか若干上回っていますが、「話の論理的な構成や展開などに注意して聞く」ことは全国値より少々低かったです。学校生活の様々な場面で聞き取った内容をまとめる活動を取り入れて力を伸ばしていきます。

読むこと

「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」ことに課題があります。文脈に即して語句の意味を的確に捉えながら読むよう指導していくことと、その際文脈の中における具体的、個別的な意味を捉えるように指導することを心がけていきます。

書くこと

A・B問題ともに全国平均を上回っていますが、全国と同様、「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」の正答率は5割を下回っているのが課題です。感じたことや考えたことを書く際、比喻や反復などの表現技法に着目させるようにし、根拠を明確にした文章が書けるよう指導していきます。

言語事項

「文脈に即して漢字を正しく読む」ことや「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」ことは全国平均と同じか若干上回っていますが、「文章に即して漢字を正しく書く」は正答率が低かったです。漢字の確実な習得には繰り返し練習が不可欠であり、覚えても使わなければ忘れてしまうものなので、今後も小テストを実施しながら定着を図るとともに、学校全体で学習できる環境を整えていきたいと思っています。

国語科で育成した言語能力は、他教科の基幹になることは言うまでもないので、今後ともさらなる言語活動の充実を図り、授業改善を推進していきます。「国語の勉強は好きか」、「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的回答はいずれも全国値を上回っていますし、「最後まで解答を書こうと努力した」生徒も9割強で、学習に対する意欲は高いですので、主体的に課題を解決していく授業を工夫し、さらに学力の定着を図っていきます。

2. 数学

平均正答率は「知識」に関する問題A、「知識の活用」に関する問題Bともに全国平均・県平均とほぼ同程度(±5%以内)でした。全国・県と同様に、数学Aに比べ、数学Bの正答率が低くなっています。

各領域の状況・課題

数と式

全国値と比べると、「加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算できる」、「整式の加法と減法の計算ができる」、「等式を目的に応じて変形することができる」、「簡単な連立二元一次方程式を解くことができる」の正答率が下回っています。継続して問題演習の時間を確保し、既習の基本的な計算問題を繰り返し学習することで、苦手とする生徒を支援していきたいと思っています。

「数学の勉強は好きか」、「数学の授業内容はよく分かるか」に対する肯定的回答はいずれも全国値を5ポイント近く上回っています。また、「数学ができるようになりたい」という意識も高く、数学の学習に対して意欲的です。この意欲をつぶさないよう、わかりやすい授業の提供に努めていきます。特にB問題の正答率が低いので、日頃から数学的な表現を用いて説明する表現活動を多く取り入れた授業を推進していきたいと思っています。

関数

全国と同様、「関数の意味を理解する」、「比例のグラフから式を求める」、「事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明する」、「数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理する」ことに課題があります。

図形

全国と比べ正答率が低かったのが、「多角形の内角の和の求め方を理解している」、「与えられた命題の仮定を読み取る」でした。

資料の活用

A問題、B問題ともに全国値を上回っていましたが、「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」ことは全国同様、正答率が2割を超えませんでした。